

CSR REPORT 2018

INFORMATION REVOLUTION - HAPPINESS FOR EVERYONE.



情報革命で 人々を幸せに



ソフトバンクグループは、「情報革命で人々を幸せに」という経営理念の下、300年間成長を続け、世界中の人々に貢献する企業グループでありたいと考えています。

コンピューターが人類の知能を超える、人類史上最大のパラダイムシフト「シンギュラリティー（技術的特異点）」が近い将来到来します。インターネットにつながる多種多様なデバイスIoT (Internet of Things) は爆発的に増え続け、そこから生み出されるビッグデータによって、人工知能が加速度的に進化し、人類の知能を超える超知性が誕生するでしょう。

この「シンギュラリティー」の到来により、あらゆる産業が再定義され、私たちの生活も激変していきます。

そのような未来を見据え、私たちは「ソフトバンクグループCSR基本方針」の下、情報革命を牽引する企業グループとして、事業を通じて継続的な社会課題の解決に取り組むことで、世界中の人々が豊かに暮らすことができる社会の実現を目指していきます。

2018年7月
ソフトバンクグループ 代表取締役会長 兼 社長

孫 正義

ソフトバンクグループCSR基本方針

ソフトバンクグループは通信事業者として、情報という名のライフラインを守る重要な使命と責任を負っています。この大きな社会的責任を完遂するために、私たちは常にお客さまの「うれしい」から考え始め、成長への果敢な挑戦を通じて株主の皆さまの期待に応えます。また、その挑戦が成長を生む環境を整えて従業員のやりがいと誇りを大切に、相互信頼と革新をベースにしてお取引先との発展を期し、そして健全なインターネット社会の夢と志が次世代に受け継がれるような社会への貢献を続けていきます。

- 私たちは… 私たちソフトバンクグループは、「情報革命で人々を幸せに」という経営理念の下、事業を通してステークホルダーの皆さまと共に発展を遂げる企業でありたい。そのために、私たちは、自らにこう問いつづけます。
- 創っているだろうか ワクワクする驚きを。わかりやすさと安心を。みんなの「うれしい」を。ソフトバンクグループは、**お客さま**本位でありつづけます。
- 進めているだろうか 成長へのあくなき挑戦を。健全で透明な経営を。公正で適時な情報開示を。ソフトバンクグループは、**株主**の皆さまの期待に応えていきます。
- 持っているだろうか チャレンジと成長の場を。個性が生かされる環境を。頑張りや成果が評価される仕組みを。ソフトバンクグループは、**従業員**のやりがいと誇りを大切にします。
- 築いているだろうか 相互の信頼を。公正な取引関係を。革新を生み出すパートナーシップを。ソフトバンクグループは、**取引先**の皆さまと共に発展していきます。
- 育んでいるだろうか 健全なインターネット社会を。夢と志をもつ次世代を。地球の未来を。ソフトバンクグループは、人々が幸せになる**社会**作りに貢献します。
- ソフトバンクグループは、あすのインターネット社会にむけて、志高く事業に取り組んでまいります。

ソフトバンクグループについて

ソフトバンクグループは、事業領域である「情報産業」において、時代に必要とされる最先端のテクノロジーと最も優れたビジネスモデルにより、情報革命を推進していきます。

2018年3月末現在

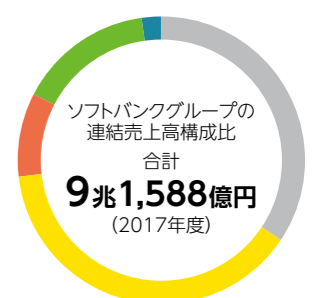
社名	ソフトバンクグループ株式会社 SoftBank Group Corp.	
設立年月日	1981年9月3日	
本社所在地	〒105-7303 東京都港区東新橋1-9-1	
代表者	代表取締役会長 兼 社長 孫 正義	
資本金	2,387億72百万円	
子会社数	1,141社	
関連会社数	385社	
従業員数	195人(連結ベース74,952人)	

ソフトバンクグループの事業領域と主なグループ企業 (2017年度)

■ 国内通信事業	3兆2,298億円	ソフトバンク株式会社/Wireless City Planning株式会社
■ スプリント事業	3兆6,020億円	Sprint Corporation
■ ヤフー事業	8,844億円	ヤフー株式会社/アスクル株式会社
■ 流通事業	1兆4,193億円	Brightstar Corp./ソフトバンク コマース&サービス株式会社
■ アーム事業	2,023億円	Arm Limited
■ ソフトバンク・ビジョン・ファンド		
○ およびデルタ・ファンド事業	—	SoftBank Vision Fund L.P./SB Delta Fund (Jersey) L.P.
■ その他	1,624億円	福岡ソフトバンクホークス株式会社

社名の表記について…本レポートでは、特段の記載がない限り、2018年7月1日時点の社名を示しています。各セグメントの売上高は、億円未満を四捨五入しています。

売上高の構成比率*



■ 国内通信事業	34.6%
■ スプリント事業	38.6%
■ ヤフー事業	9.5%
■ 流通事業	15.2%
■ アーム事業	2.1%

* セグメントの売上高の単純合算額(「その他」を含まず)に対する各セグメントの比率

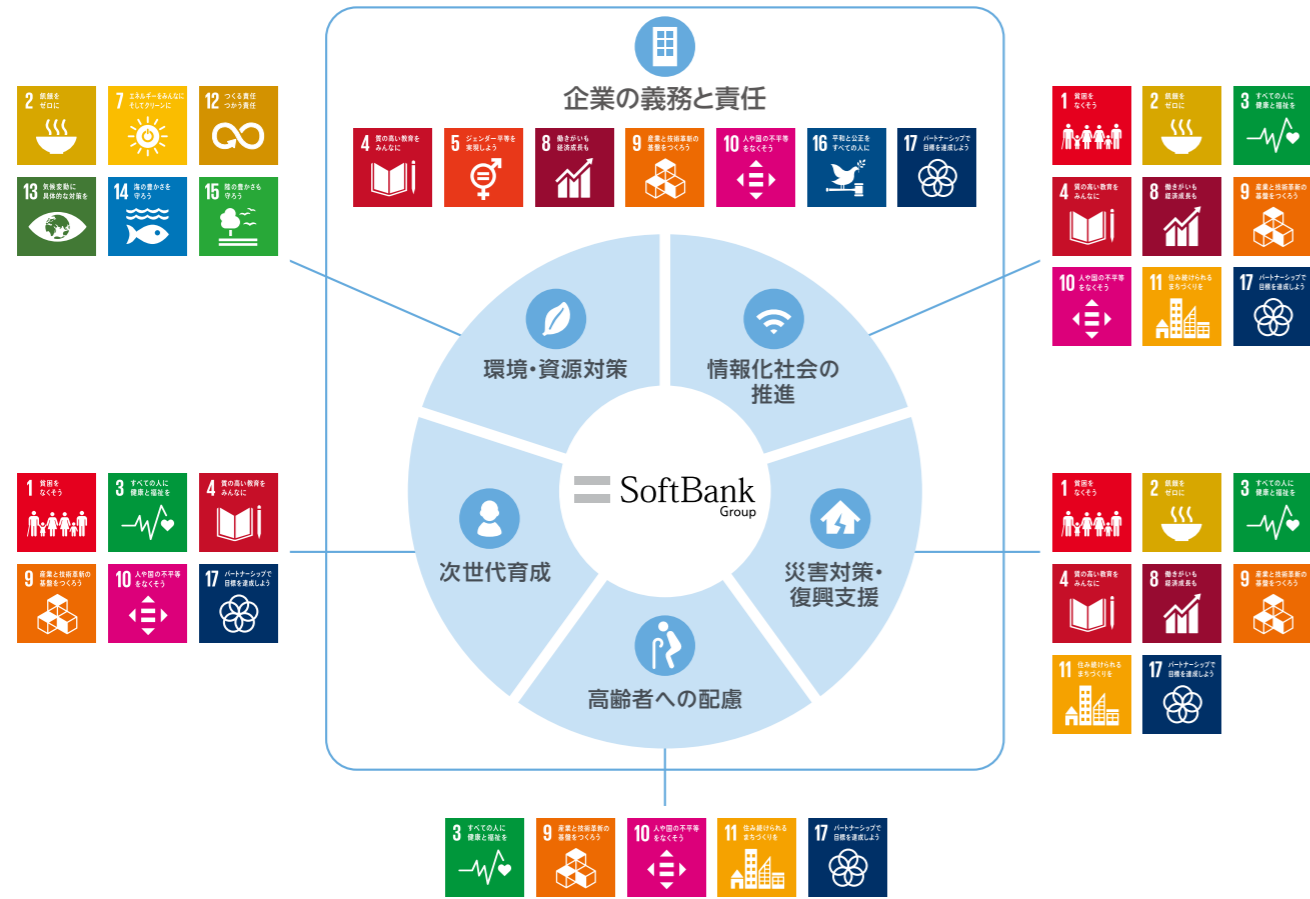


未来への責任

私たちは、情報革命の力で、世界の人々の幸せにつながる
新しい価値の創出のために挑戦し続けていきます。

今、目の前で起こっている社会課題に立ち向かいながら、私たちは未来の社会で起こりうる出来事を絶えず想像し、
今後深刻化していくであろう社会課題の解決に迅速に取り組むことが重要であると考えます。

私たちは、「情報化社会の推進」「次世代育成」「高齢者への配慮」「環境・資源対策」「災害対策・復興支援」の5項目を
注力していくテーマとして設定し、世界中の同志的企業とともに、人々が豊かに暮らすことができる社会の実現に取り組めます。



SDGsへの取り組み

2015年に国連で採択された持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)は、豊かで活力ある未来をつくるための17の目標を定めたもので、現在世界規模でこれらの実現に向けて取り組まれています。

ソフトバンクグループの「情報革命で人々を幸せに」という経営理念も、世界中の人々が幸せに豊かに暮らす社会のために貢献し続けたいという創業以来の志が凝縮された言葉です。

私たちは、グローバルに事業を展開する企業の責任として定めた5項目の社会課題に取り組むことで、SDGsの目標達成を目指します。



目次

ソフトバンクグループ株式会社のCSR	6
次世代育成	6
次世代育成 / 環境・資源対策	8
Feature 1 Pepper 社会貢献プログラム	6
TOMODACHI ソフトバンク・リーダーシップ・プログラム	
トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム	
再生可能エネルギーの創出	8
ソフトバンク株式会社のCSR	9
次世代育成	10
情報化社会の推進	12
Feature 2 ICT部活動支援	10
Feature 3 地域に密着したCSR組織	12
魔法のプロジェクト	
DO-IT Japan	
障がいのある方をサポートするアプリ	13
情報化社会の推進 / 環境・資源対策	14
成長ログサービス	
自然でんき	
3R活動の推進	14
Feature 4 SBDライブの次世代モビリティサービス	15
高齢者への配慮	16
災害対策・復興支援	16
災害時安心サービス	
チャリティホワイト	
ソフトバンクグループの募金プラットフォーム	16
企業の義務と責任	17
みんなで考えよう、スマートフォン／あんしんフィルター	
ショートタイムワーク制度	17
LGBTへの取り組み	
女性活躍を推進	
社員の積極的な社会貢献活動	18
国内グループ企業のCSR	19
情報化社会の推進 / 災害対策・復興支援	20
Feature 5 ヤフー株式会社の取り組み	20
スーパーコンピューター「kukai」の開発	
全国統一防災模試の実施	
3.11 応援サイトの立ち上げ	20
情報化社会の推進 / 次世代育成 / 環境・資源対策	21
HELLO CYCLING	
福岡ソフトバンクホークス選手とのふれあい野球教室	
ICTライフサイクルサービス	21
海外グループ企業のCSR	22
企業の義務と責任 / 情報化社会の推進	23
Alibaba Group Holding Limited	
Sprint Corporation	23
次世代育成	24
Feature 6 Arm Limitedの取り組み	24
ソフトバンクグループの取り組みと持続可能な開発目標(SDGs)対照表	26

このマークをクリックすると、詳細情報(外部サイトへ)リンクします。



<各取り組みに当てはまるSDGs項目>

※ 次ページからSDGsの17の目標に沿って左図のように
右上に色と番号をつけています。
SDGs取り組みの詳細はP26～27をご覧ください。



Feature 1

Pepper 社会貢献プログラム

Pepperがつなぐ未来

次世代教育支援と社会への活動

人型ロボット「Pepper」を自治体や非営利団体などに3年間貸し出し、

小中学生のプログラミング教育支援や社会課題の解決を目指す

「Pepper 社会貢献プログラム」を実施しています。

2017年の活動開始から1年、

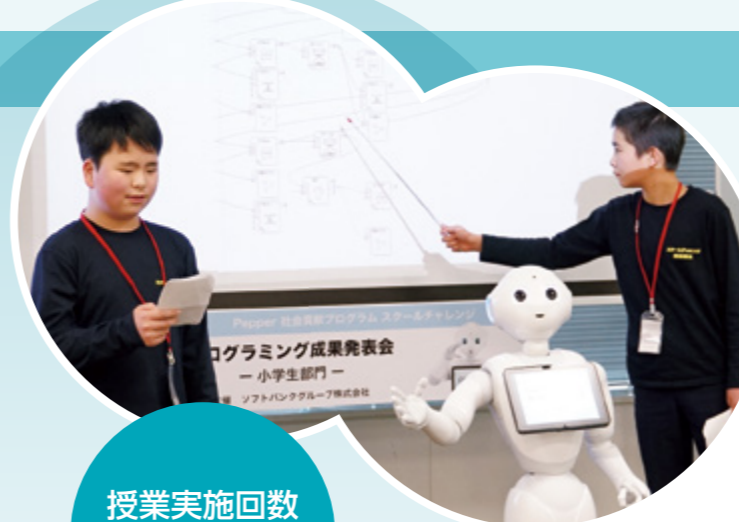
Pepperがさまざまな分野で活躍しています。

社会課題の
取り組み例

障がい者の新たな雇用を創出 社会福祉法人ぶろぼの

IoTを活用し障がい者の就労支援をしている団体です。ソーシャルチャレンジに参加し、障がい者の就労支援におけるPepperのアプリ開発を開始しました。

例えば、奈良県の県営平城宮跡歴史公園では、Pepperによる受付・館内案内アプリを運用し、遠隔でPepperを管理しています。10年後の障がい者就労支援や生活を見据え、大きな成果をもたらしています。

授業実施回数
約12,000回※

「プログラミング成果発表会」を2018年2月に開催。子どもたちが自分の身の回りにある課題を見つけ、Pepperを使ったらどう解決できるかなど、レベルの高い発表が繰り広げられました。金賞チームには「米国・シリコンバレー視察」が授与され、3月に渡米しました。

※ 2018年7月末時点

学びに集中できる環境づくりを

プログラミング教育に取り組む子どもたちや先生のため、さまざまなツール提供を開始。

- 教育に特化したロボットプログラミングツール「Robo Blocks」
- 新学習指導要領対応の「教師用指導書」
- 主要教科などでの活用向け「ロボアプリ」

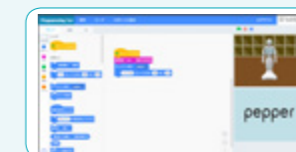
2018年2月以降順次提供

教育支援の
取り組み

子どもたちに最先端の教育を

全国の小中学校で、Pepperを活用したプログラミング教育を実施し、生徒の論理的思考力や問題解決力などの育成に取り組んでいます。

最先端技術のロボットに触れ、自分で動かす実体験を通じて、子どもたちが大きな夢と志を持って成長していくことを期待しています。



「Robo Blocks」



ロボットと共生し 協働する世界を目指して

経済産業省、NEDO*の主催により、2020年に日本で開催されるロボット国際大会「World Robot Summit」にグローバルパートナーとして協賛しています。学校で必要とされるロボットの活用方法とアプリケーション開発を競う「Junior Category」で利用するプラットフォームロボットとしてPepperが採択されました。未来の担い手である世界中の子どもたちの可能性を広げるべく本大会をサポートしていきます。

※ 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構



SDGs対照項目 4 17

TOMODACHI ソフトバンク・リーダーシップ・プログラム

東北の復興を担うリーダー育成プログラム
参加者の積極的な活動で地域貢献

ソフトバンクグループと米日カウンシルは2012年より毎年、東日本大震災の被災地域(岩手・宮城・福島)の高校生100人*を対象に、米国カリフォルニア大学バークレー校で開催される3週間の集中コースに招待しています。生徒たちは同大学の問題解決型ワークショップ「Y-PLAN (Youth-Plan, Learn, Act, Now!)」でグローバルリーダーシップ・スキルと地域貢献について学び、帰国後、本プログラムで学んだことを生かしたさまざまな地域貢献活動を積極的に行っています。



* 2012年度は300人

累計800人が参加
2021年度までに1,200人突破予定



800人をつなげるために

2017年12月より、本プログラムの卒業生を対象とした実践的インターンシップ制度「フェロー・ワークシップ制度」を開始しました。参加者は、当プログラム卒業生の交流を促進するための施策やソフトバンクCSR部門の業務などに携わります。実践的な業務を通じ、参加者自身の成長にもつなげます。



4 17

トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム

官民協働で支援 次世代のグローバル人材育成

2014年より、文部科学省と独立行政法人日本学生支援機構の取り組みである官民協働海外留学支援制度「トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム」を支援し、「世界で、または世界を視野に入れて活躍できる人材」の育成に貢献しています。当プログラム開始から2020年までに、1万人の高校生・大学生が海外での有意義な学び体験に送り出される予定です。



7

再生可能エネルギーの創出

安心・安全な自然エネルギーの普及・拡大に貢献

安心・安全な電力供給のため、SBエナジー株式会社では再生可能エネルギー発電事業に取り組んでいます。

太陽光発電では2012年に稼働を開始した京都市をはじめ、日本全国で33基の当社開発メガソーラーが稼働しています。風力発電では2016年より「ウインドファーム浜田」が稼働。

2017年10月にはモンゴル・ゴビ砂漠で初の風力発電事業となる「Tsetsii Wind Farm」が運転を開始。これからも国内外で太陽光や風力、地熱などのさまざまな自然の力を利用して生み出される自然エネルギーを通じて、再生可能エネルギーの普及・拡大を目指します。



ウインドファーム浜田



Tsetsii Wind Farm



鹿児島島入来ソーラーパーク

CSR REPORT 2018
ソフトバンク株式会社のCSR



Feature 2 ICT部活動支援

ICTを活用して部活動を遠隔でサポート

「ICT部活動支援」は、スマートフォンやタブレットなどを活用して、知識や経験が豊富なコーチが部活動を遠隔でサポートし、スポーツを通じた子どもたちの健全な成長を応援する取り組みです。



動画添削やメッセージ機能などを備えた専用のプラットフォーム「スマートコーチ」*を活用することで、いつでも気軽に専門コーチへの相談が可能になります。プロの元選手やコーチ、専門コース在籍中の大学院生など専門知識のあるコーチングスタッフからの指導を受けることができます。

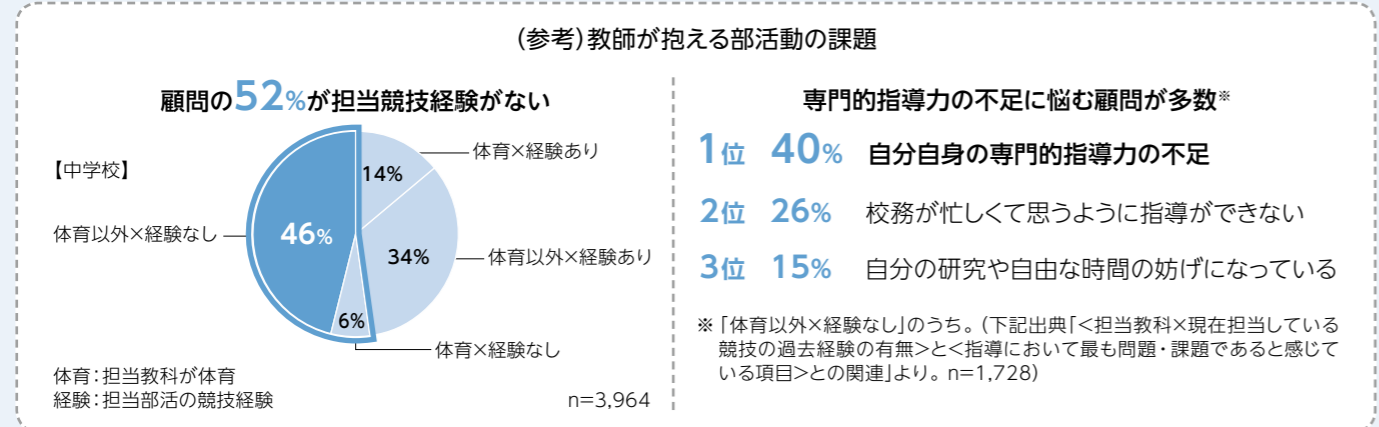
昨今部活動では、生徒たちの教育育成面だけでなく、指導者（顧問）側の労働時間や負荷についても社会課題化しています。指導者は負担を感じている中で、担当部活の競技経験や指導力の不足について悩まされており、多重の負荷を抱えています。専門コーチからのアドバイスにより、競技経験が少ない顧問や高度な指導を目指す顧問などが抱える課題の解決を促進します。

ICTの特長を生かして、日常の練習サポートの質の向上にとどまらず、天候や時間的な制約を受けやすい地域面での格差の解消など、距離や時間の制約を越えた部活動指導を目指します。

* 現役、元プロスポーツ選手やコーチなどからオンラインプライベートレッスンを受けることができるソフトバンクのサービス

導入のメリット

- 専門コーチによる適切な添削指導
- 時間面での制約解消
- 地域面での格差解消
- 先生・顧問の負担軽減



出典：公益財団法人日本スポーツ協会 2014年7月「学校運動部活動指導者の実態に関する調査報告書」

ICT部活動支援

現在の導入実績



※ 2018年7月末時点



<成績UPの事例>

山口県・宇部フロンティア大学付属香川高校 弓道部



自分が気が付かなかった点も**専門コーチからの遠隔指導**により伝えることができるので、子どもたちの成長にもつながり、私自身も指導ノウハウを蓄積することができました。
山口県・宇部フロンティア大学付属香川高校 弓道部顧問

<遠隔地での活用事例>

北海道・天塩町

卓球部で導入

距離と時間のハンデを無効化するICTを活用し、地方の子どもたちにこそ、スポーツをもっと楽しんでもらえるような環境を用意したいと思い導入しました。
北海道天塩町役場担当者



SoftBank 東北絆CUP スポーツや文化活動に励む東北の子どもたちを応援

東日本大震災の被害があった岩手県、宮城県、福島県の小中学生を対象に、バスケットボール、野球、サッカー、吹奏楽、民俗芸能の種目で「SoftBank 東北絆CUP」を2018年8月から実施します。事前に「ICT部活動支援」*を提供し日頃の練習をサポートし、大会当日には遠隔指導の成果発表会が行われます。そのほかに当日は親善試合、有名アスリートやほかの参加者との交流ができるなど、子どもたち全員がスポーツや文化活動を楽しみ主役になれる大会を目指します。

* 「ICT部活動支援」は中学生の部活動に提供し、中学生個人参加者には「スマートコーチ」を使用した遠隔指導を実施します。



SDGs 対照項目 8 9 11 17

Feature 3 地域に密着したCSR組織

地域に密着して 社会の課題解決を支援

ICTのプロとして地域社会の活性化を目指す

地域に密着して社会の課題解決を支援するため、東北、東海、関西、九州エリアにCSRの拠点を設置しています。地域の拠点には、経験・実績豊富なシニアの社員を配置し、ICTのプロとして地域社会の課題を解決する中心的役割を担うと同時に、シニア人材活用の新しいロールモデルとして、働き方改革を推進していきます。

■ 主な取り組み

- ・ 地域における社会貢献施策の企画・推進
- ・ 地域の課題解決に向けたグループ各社との連携
- ・ 情報リテラシーなど教育・青少年育成支援
- ・ 災害復興支援 など



東北エリアのCSR社員



南相馬市と南阿蘇村の遠隔交流事業を実施



宮城県東松島市との包括連携協定を締結

※ 2018年4月1日時点



SDGs 対照項目 8 9 10 17

魔法のプロジェクト

ICTを活用し、障がいがある子どもの学習・生活を支援

「魔法のプロジェクト」は、障がいのある子どもたちへ携帯情報端末を活用した学習・生活支援の事例研究を行う取り組みです。*1 2017年度はICTを活用し生徒にコミュニケーションの幅を広げてほしいという願いをテーマに、「魔法のプロジェクト2017～魔法の言葉～」を実施しました。

コミュニケーションが少なかった生徒も、人型ロボット「Pepper」*2のプログラミングを介して共通する話題を持つことで、同年代の子どもと触れ合い、関わりを持つことができるようになりました。また、予期不安があり、語彙の不足から気持ちをうまく伝えられなかった生徒が、写真や動画を活用することで気持ちを伝えることができるなど、コミュニケーションが成立することで、生徒が意思を伝え、必要な情報を得て、学習へのスムーズな参加につながったり、さらには、他者との交渉や自分で折り合いをつけることを学ぶことができた事例など、多くの研究成果が生まれました。

*1 2009年からソフトバンク株式会社、株式会社エデュアスが東京大学先端科学技術研究センターと協力し実施しています。
*2 ソフトバンクグループ株式会社実施する「Pepper 社会貢献プログラム」の一環として、本プロジェクトに無償貸与されています。



4 8 17

DO-IT Japan

ロボットやICTなどのテクノロジーを活用し 障がいのある若者のリーダー育成に貢献

2007年から障がいや病気を抱える若者の進学・就労支援プログラム「DO-IT Japan」*1,2を支援しています。2017年度の夏季プログラムは、距離や障がいの都合などで来場できない参加者の代わりにPepperが参加。参加者自ら遠隔操作し教室の生徒との交流や発言を行うなど、新たな授業環境を実現しました。

*1 東京大学先端科学技術研究センター主催
*2 Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology



4 9 10

障がいのある方をサポートするアプリ

ユーザーに寄り添ったアプリで コミュニケーションの垣根を越える

① 視覚障がい者向け使い方教室 for iPhone

見ることが難しい方にも、iPhoneの基本的な操作方法を学習・練習していただけのアプリ。

② ゲームで学べる手話辞典

3,000語以上の手話単語を3Dアニメーションで表示。手話アプリとして初めて、東京都聴覚障害者連盟*からの推薦を受けました。

* 公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構 東京都聴覚障害者連盟



SDGs対照項目 3 9

成長ログサービス

乳幼児期から一生涯の成長・発達・健康に関する情報を記録・管理



スマートフォンなどを使用し、乳幼児期から生涯にわたり成長や発達、健康に関する情報を記録・管理できる自治体向けのサービス*です。住民は従来の母子手帳での发育記録に加え、生活のさまざまな場面に応じた成長・発達の状態について、記録・管理することができます。そうした状態を客観的に把握することで、教育や健康、福祉などに役立てることが可能となります。自治体はお知らせ機能やリクエスト機能を活用し、住民との関わりをより深めることが可能です。

* 導入自治体：大阪府池田市、岡山県新見市(2018年7月末時点)



7 13

自然でんき

FIT電気を各家庭に供給

FIT電気*1(再生可能エネルギー)を活用した電力サービス「自然でんき」を提供しています。SBエナジー株式会社などが供給するFIT電気を82.9%*2含む電気のプランで、小売電気事業者であるSBパワー株式会社(以下、SBパワー)がご家庭にお届けします。北海道、東北、東京、中部、関西、中国、四国、九州の各電力エリアで提供し、SBパワーが調達するFIT電気の比率50%を目標としています。また、SBパワーが1契約につき50円/月を拠出して環境保全活動支援を行い、お客さまによる費用の負担なく、低炭素社会の実現に貢献していただけます。

*1 SBパワーがこの電気を調達する費用の一部は、当社のお客さま以外の方も含め、電気をご利用の全ての皆さまから集めた賦課金により賄われており、この電気のCO₂排出量については、火力発電なども含めた全国平均の電気のCO₂排出量を持った電気として扱われます。

*2 電源構成は、各電気事業者(発電事業者、一般送配電事業者、小売電気事業者)との取引に基づき算定した数値です(2018年6月22日時点)。算定対象期間：2017年4月1日から2018年3月31日まで



12

3R活動の推進

事業を通じて循環型社会の実現に貢献

事業を通じた3R活動(リデュース、リユース、リサイクル)に取り組んでいます。



限りある地球の資源を大切に

● リデュース (ゴミの量の削減)

ソフトバンクの携帯電話サービスを利用中のお客さまを対象に、使わなくなった携帯電話やタブレットを回収し、部品を再利用しています。また、取扱説明書の電子化やアプリ化により、紙の使用量削減に努めています。

● リユース (繰り返し使う)

機種変更などで、故障していないにもかかわらず使用されなくなった携帯電話やタブレットを下取りし、再整備後に新興国などでの再利用を推進しています。

● リサイクル (再度資源として生かす)

携帯電話事業者、メーカーを問わず、使用済み携帯電話の本体や電池パック、充電器類、USIMカードなどの回収を積極的に行っています。2017年度は使用済み携帯電話本体を約133万台回収しました。

SDGs対照項目 3 9 10 11 17

Feature 4

SBドライブの次世代モビリティサービス

全ての人々が自由に、安全に移動できる社会を目指す



ソフトバンク株式会社のグループ企業であるSBドライブ株式会社では、自動運転技術を活用した新しいモビリティサービスの提供により、全ての人々が自由に、安全に移動できる社会づくりを目指し、自治体やバス会社と実証実験などを行っています。ドライバーの高齢化や人手不足、過疎地域での移動手段の縮小など、各地域が抱える課題を解決するための手段として期待されています。

実用化に向けた取り組み

- 1 全日本空輸株式会社と、空港における自動運転バスの導入に向けた実証実験を2018年2月に実施。羽田空港新整備場地区の公道で、自動運転バスによる自動運転レベル3および4相当の自動走行を行いました。
- 2 内閣府が推進する戦略的イノベーション創造プログラム「自動走行システム」において、沖縄県宜野湾市および北中城村でのバス自動運転実証実験を受託。2017年10月から12月まで実証実験を行いました。



SDGs 対照項目 11

災害時安心サービス

安心と安全を届けるため企業としての責任

ライフラインである通信インフラを担う通信事業者として、毎年春と秋の2回、大地震・火災などを想定し防災訓練を実施しています。また、1秒でも早く安心と安全を届けるため、2017年11月には自衛隊航空機への移動基地局車搭載訓練、2018年2月には首都圏直下型地震を想定した気球無線中継システムによる通信復旧手順の確認など、日頃から個別の訓練にも取り組んでいます。

万が一の災害に備えた対策に取り組むとともに、最新のテクノロジーを活用し、災害時にお客さまのコミュニケーションの手段を確保するためのサービスを提供しています。

1 緊急速報メール

緊急地震速報、津波警報、特別警報、災害・避難情報などを、対象エリアのお客さまに一斉配信するサービス。緊急速報メールを受信した携帯電話*は、回線混雑の影響を受けずに受信することができます。

* iPhone、Androidなどの各種スマートフォン、フィーチャーフォンに対応しています。

2 災害用伝言板・災害用音声お届けサービス

「災害用伝言板」は、災害発生による回線混雑時でも、お客さまよりメッセージをお預かりし、ご家族や友人などにお届けするサービスです。

また、「災害用音声お届けサービス」は、同状況下にパケット通信で音声メッセージをお届けします。



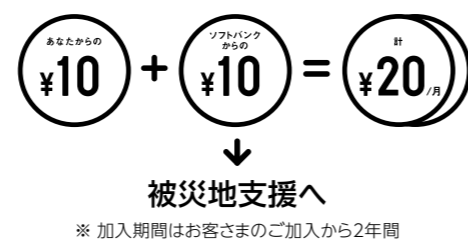
1 4 11 17

チャリティホワイト

東日本大震災で被災した子どもたちを継続的に支援

毎月の携帯電話利用料金にプラスして10円の寄付をいただき、ソフトバンクも同額を拠出し*1、1カ月当たり計20円を寄付するサービスです。総額11億円*2を超える寄付金は、東北の子どもたちの心のケアや学習サポートなどのために活用されます。

*1 寄付先: あしなが育英会 / 社会福祉法人 中央共同募金会
*2 2018年7月末時点



1 2 9 10 11 17

ソフトバンクグループの募金プラットフォーム

ネットでできる身近な募金

ソフトバンクはスマートフォンの利用料金の支払いと一緒に寄付ができる「かざして募金」、ヤフーはクレジットカードやTポイントなどで寄付できる「Yahoo! ネット募金」を通じて非営利団体の継続的活動を支援しています。

ソフトバンクグループは、さまざまな社会課題の解決に取り組む非営利団体の活動を継続的に支援するため、より多くの方にご利用いただけるよう積極的に寄付サービスの案内を行うとともに、非営利団体と寄付者をつなげるためのコミュニケーション方法を検討していきます。



日本最大級のプラットフォームへ
2017年度寄付総額 8億円超

SDGs 対照項目 4 9 10

みんなで考えよう、スマートフォン／あんしんフィルター

子どもたちが安心・安全にスマートフォンを利用するために

子どもたちにスマートフォンの適切な使用を促すための啓発活動や、より健全に利用できる環境づくりに取り組んでいます。

学校や地域団体などに無償配布している情報モラル教材「みんなで考えよう、スマートフォン」は、学校の授業や保護者会などで活用できる指導書と、問題提起のためのドラマ映像などで構成されており、参加型の講座を誰でも簡単に進行できるようにしています。

また、お子さまを有害情報やトラブルから守るためのフィルタリングサービス「あんしんフィルター」*を提供し、不適切なサイトやアプリを制限したり、インターネットの使い過ぎを未然に防ぐことができます。

* 使用料無料
対象: iPhone、iPad、4Gスマートフォン、4Gケータイ、タブレット

「みんなで考えよう、スマートフォン」教材DVDのお申し込みはこちら

あんしんフィルター
お申し込み詳細はこちら

8 10 17

ショートタイムワーク制度

制度、企業の枠組みを越えて障がいのある方の雇用を促進

精神障がいや発達障がいなどにより、業務の遂行が可能でも長時間勤務することが難しい方が週20時間未満という短い時間で就業できる、「ショートタイムワーク制度」を導入しています。



ショートタイムワーク制度
GOOD DESIGN AWARD 2017 特別賞 [未来づくり]

2017年度グッドデザイン特別賞[未来づくり]受賞

利用スタッフコメント

私は気分変動症と不安神経症で、緊張や恐怖感が強い傾向があります。この傾向を部署の方々が良く理解してくださり、対話を重ねながら働ける環境がありました。“できる”経験を重ねたことで自分の自信につながりました。

誰もが自分らしく活躍でき、挑戦できる社会を

2018年2月には、東京大学先端科学技術研究センターと連携し「ショートタイムワークアライアンス」を発足。企業・団体など、現在46法人が参加し、地域や業界の垣根を越えて制度を広め、時間や障がいにとらわれることなく一人一人が特性を生かし、挑戦できる社会の創造を目指します。

ショートタイムワークアライアンス
特設ページはこちら

SDGs対照項目 5 10

LGBTへの取り組み

多様な人材が活躍できる社会に

誰もが働きやすい職場環境づくりの一環として、2016年10月に社内規定における配偶者の定義を、日本の法律で認められている配偶者に加え、同性パートナーも含むように改訂しました。

その他、社内での取り組みだけでなく、性的少数者が差別や偏見を受けずに自分らしく生活できる社会の実現を目指す日本最大級のLGBT関連イベント「東京レインボープライド2018」*の趣旨に賛同し、同イベント期間中の2日間、「ソフトバンク表参道」の店舗を多様性の尊重を意味するレインボーカラーで装飾しました。また、同イベントのパレード参加や、イベント会場でのパネル展示などを実施。今後も社内外での啓発活動に取り組み、多様な人々がやりがいを持ちながら活躍できる企業を目指します。

* 特定非営利活動法人 東京レインボープライド主催



5 10

女性活躍を推進

誰もが活躍できるソフトバンクの実現へ

ソフトバンクで働く女性の社員比率は約27%、女性管理職比率は5.7%です*。女性の平均勤続年数は11.6年で、出産・育児休暇後に復職する女性社員は実に90%以上います。多くの女性が仕事と育児の両立を実現しており、女性活躍に関する取り組み状況が優良な企業として、厚生労働大臣による「えるぼし」(認定段階2)の認定を受けています。

2017年5月にはダイバーシティ推進課が発足し、女性活躍を推進する取り組みを今後さらに強化していきます。

* 2018年4月時点



1 11 16 17

社員の積極的な社会貢献活動

● 社員募金による寄付活動

社員の声から始まった社員募金制度は、社員から集まった義援金を地域で活動する非営利活動法人の支援のために寄付しています。大規模災害発生時は災害用社員募金を立ち上げ、集まった金額と同額を会社が拠出し被災地の支援活動を行う非営利団体へ届けています。

● 社員のボランティア活動を促進

社員がボランティア活動に取り組みやすい環境づくりとして、年2日のボランティア活動休暇を付与しています。清掃や被災地支援活動などを通して、本業を超え地域と密接なコミュニケーションを構築し、その経験などを本業に生かすことで、より良い社会づくりに貢献することを目指しています。

● 団体献血

ソフトバンクグループ本社ビルでは、2006年から1年に2回、社員を対象とした団体献血を実施しています。その他の事業所でも団体献血を定期的に行っており、病気やけがなどで輸血を必要としている方々の力になれるよう、献血を通じた継続的な社会貢献活動に取り組んでいきます。



寄付先団体からのメッセージボード



団体献血実施の様子



CSR REPORT 2018

国内グループ企業のCSR

Feature 5 ヤフー株式会社の取り組み

20年先を見据えた
社会課題解決に挑戦

SDGs対照項目 12 13 14 15

スーパーコンピューター「kukai」の開発

「GREEN500」世界第2位を獲得

ディープラーニング活用に特化した省エネ性能の高いスーパーコンピューター(以下、スパコン)「kukai」*を開発し、スパコンの省エネ性能ランキング「GREEN500」で世界第2位を獲得しました。株式会社IDCフロンティアと共同で運営する「白河データセンター」で運用し、大規模なディープラーニング処理を短時間かつ低コストで実施できるとともに消費電力当たりの処理性能も世界トップクラスの値を記録するなど、環境に配慮した情報通信技術の発展に貢献しています。

* 株式会社ExaScaler、HPCシステムズ株式会社の協力の下開発



スパコン「kukai」の液浸技術

1 2 11

全国統一防災模試の実施

ICTを活用し防災に必要な知識を

東日本大震災から7年が過ぎ、改めて震災の記憶の風化防止、災害への備えの重要性を啓発するため、2018年3月1日～31日の1カ月間、スマートフォン用アプリ「Yahoo! JAPAN」にて「全国統一防災模試」*を実施しました。災害が起きる前に何ができるか、また災害時にどう行動するか、いつか起こりうる災害への備えとして、いま一度防災に必要な知識を身に付けてほしいという思いで実施し、約150万人を超える方々が挑戦しました。

* 東北大学災害科学国際研究所の佐藤翔輔准教授監修の下、「防災」「避難」「避難所」「生活再建」のフェーズに合わせた全25問の設問から構成

全国統一
防災模試
2018.3.1-3.31



1 2 11

3.11 応援サイトの立ち上げ

東日本大震災から7年、いま応援できること

東日本大震災の継続的な復興支援の一環として、応援サイトを立ち上げ、「寄付」「買う」「知る」「検索」の4つの方法でお客さまの想いととも東北を応援しています。「Search for 3.11 検索は応援になる。」では、3月11日に「Yahoo!検索」で「3.11」というキーワードを検索画面に入力すると、検索した人数×10円を復興支援に取り組む団体へヤフーや応援パートナーが寄付するプロジェクトを実施。2018年は、41,875,110円を東北の復興に携わる6団体へ届けました。

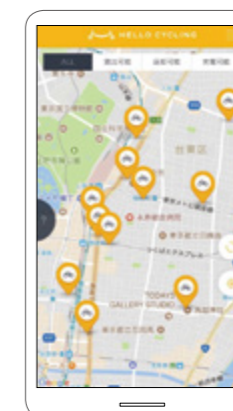


HELLO CYCLING

IoTで叶えるエコで利便性の高い移動手段

OpenStreet株式会社*は、2016年11月にシェアサイクルプラットフォーム「HELLO CYCLING」を開始し、2018年6月時点で、全国85市区町村で提供しています。利用者は「HELLO CYCLING」のステーションであれば、どこでも自転車の借用・返却が可能。エコで健康的、かつ既存の公共交通機関ではカバーできなかった地域へのアクセスを改善する移動手段として、地域活性化や「まちの価値」向上に貢献します。

* ソフトバンクグループの新規事業提案制度「ソフトバンクイノベーション」を通じて設立した会社



災害時のステーション無償利用実施

2018年6月の大阪府北部を震源とした地震発生の際、被災された方々に11ステーションの自転車を無償で利用可能にしました。公共交通機関が停止する状況での緊急交通インフラとして、少しでも安心して過ごすことができる環境づくりに貢献しました。

4

福岡ソフトバンクホークス選手とのふれあい野球教室

プロ野球選手との交流を通じて
スポーツの楽しさを体感

福岡ソフトバンクホークス株式会社と福岡ソフトバンクホークス選手会は、毎年「ふれあい野球教室」を開催し、ホークス選手からの直接野球指導や記念撮影、プレゼント抽選会などスポーツを通じた交流を実施しています。2017年11月には「SoftBank HAWKS ベースボールキッズ 2017 in 九州」が九州の全9会場で開催され、小学生2,250人が参加しました。このような取り組みを通じて、地域スポーツ振興と子どもたちの健全な育成による社会貢献を目指します。



12

ICTライフサイクルサービス

不要になったICT機器の買取

ソフトバンク コマース&サービス株式会社では、不要になったスマートフォン、パソコン、タブレットなどのICT機器を買取る「ICTライフサイクルサービス」を行っています。環境への配慮のためリユース/リサイクルを促進するだけでなく、ゴミの排出を抑え、貴重な地球資源を守るべく、社会循環品として有効活用しています。





Alibaba Group Holding Limited

「女性と起業家精神に関する世界会議」を開催

2015年より、女性起業家や企業のジェンダー平等に向けた取り組み紹介を通じて、女性のエンパワメントやジェンダー平等の世界を目指すためのディスカッションを行う「女性と起業家精神に関する世界会議」を開催しています。2017年7月に中国・杭州市で第2回が開催され、1,500人以上の参加者が訪れたほか、30人以上の異なる領域で活躍しているリーダーたちが登壇し、彼らの経験や考え方を共有しました。

アリババグループ創業者のユン・マー会長は、「私たちのミッションは、男女問わず一人一人が夢を実現することを可能にすることです。そしてアリババグループを設立して18年、女性の同僚が私の背中を押し続けてくれています。」と基調講演を行いました。これからもアリババグループは、誰もが自分らしく活躍するためのサポートを継続して行っていきます。



アリババグループ創業者 ユン・マー会長



Sprint Corporation

子どもたちの無限大の可能性をサポート

スプリントとスプリント財団の「1ミリアンプロジェクト」は、家庭にインターネット環境がない全米の高校生を対象に無料の高速通信環境とモバイル端末を提供し、彼らの勉強や進学をサポートする取り組みです。

2017年度は、31の州で約11万人の生徒に提供し、今後はさらに15万人の生徒への提供を予定しています。情報端末があることで、プロジェクトに参加した生徒の約70%以上が「高校卒業に向けた意欲向上につながった」と回答し、約80%以上が「宿題に取り組むことができる環境が整った」と回答しました。さらに、学校関係者は、「取り組み開始後、生徒の勉強に対する態度の向上が見られ、授業への出席状況も改善した」という評価をしています。

※ スプリントは、2018年4月29日(米国東部時間)、T-Mobile US, Inc. (以下、Tモバイル)と合併に関する最終的な合意に至りました。本取引はスプリントとTモバイルの株主および規制当局の承認、その他の一般的なクローリング要件の充足を必要とします。



モバイル端末を受け取る生徒たち



CSR REPORT 2018

海外グループ企業のCSR





Feature 6

Arm Limitedの取り組み

テクノロジーを活用し2030年までに より良い社会を目指して



最新テクノロジーはすでに私たちの生活のさまざまな場面で必要不可欠な存在となっていますが、生産や雇用、健康や繁栄においてどれほどの影響があるかはまだ謎に包まれています。人工知能は農業生産性や製品デザインの面において抜本的な解決策をもたらすのでしょうか。この取り組みを通じて、テクノロジー分野で活躍している企業団体が主体となり、最先端テクノロジーが他業種への貢献に向けてどのようなことができるかを協議・模索するためのプラットフォームを構築していきます。



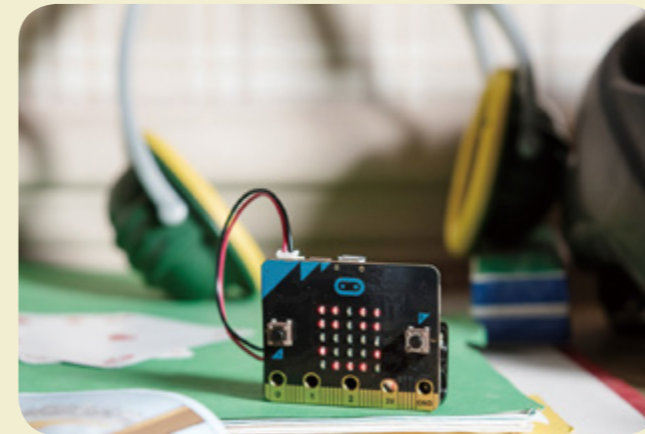
アーム社はSDGsの達成のために「2030年ビジョン」*を設立しました。このビジョンは、企業や非営利団体、教育機関や政府などとともに、テクノロジーを活用し、全ての人が2030年までに最適な環境で暮らし、生きることができるためのより良い未来を築き上げるための取り組みです。

例えばユニセフ(国際連合児童基金)とともに実施した「ウェアラブル・フォー・グッドコンテスト」において最優秀賞を受賞した、子どもの医療記録を管理するネックレス「クシ・ベイビー」は、インドにて約15,000人の子どもたちの予防接種記録の管理に成功しています。



詳しくはこちら→

* 参加団体: 英国文化振興会、ケンブリッジ・ジャッジ・ビジネス・スクール、国連グローバルコンパクト、ニューヨーク科学アカデミー、ファウナ&フローラ・インターナショナル、ユニセフ、Be He@lthy, Be Mobile、the Centre for Global Equality、SustainAbility



将来を担う子どもたちに 最新テクノロジーを学ぶ機会を



またアーム社は、世界中で慈善団体や非営利団体、政府の取り組みをサポートしている団体と協力し、STEM分野*で活躍する若者たちの育成を目的に、テクノロジーの機会提供の促進に取り組んでいます。

例えば、2016年に30以上の国際組織とともに、「Micro:bit教育財団」を設立しました。始まりは、自らプログラミングを考え構成する力を育成することを目的に、80万個以上のクレジットカードサイズのコンピューターを英国に住む12歳の子ども全員に配布したことでした。今では、Micro:bitはプログラミングの楽しさを学び教えるためのツールのひとつとして提供され、世界中の数十万人の子どもたちに普及し始めています。



さらに米国では、カリフォルニア州のテックイノベーション博物館で行われる、エンジニアリングの過程を応用して社会問題の解決を検討する「テックチャレンジ」に、9~17歳の子どもを招待しています。大会当日は約2,500人の参加者が2日間にわたって、数カ月間かけて検討した課題解決の方法について発表しました。

* 科学・技術・工学・数学の教育分野の総称



ソフトバンクグループの取り組みと 持続可能な開発目標 (SDGs) 対照表

SDGsの17の目標



SDGs 該当項目	社名	施策内容	施策名
			デジタルデバイスへの対応
8, 9, 10, 17	ソフトバンク株式会社	障がいのある子どものための携帯情報端末の活用事例研究	魔法のプロジェクト
4, 8, 17	株式会社エデュアス	障がいや病気を抱える小中高生および大学生の進学とその後の就労への移行支援を通じて、将来社会のリーダーとなる人材を育成する	DO-IT Japan
1, 4, 9	Sprint Corporation	家庭でインターネットにアクセスできる環境がない全米の高中生を対象に、通信環境と情報端末を無料で提供する取り組み	1ミリアンプロジェクト
1, 2	Arm Limited	国連の持続可能な開発目標 (SDGs) に基づき、自給自足の農村に対して、必要不可欠な知識を補完するシステム	トーキング・ブック
9	サイバー大学	情報通信関連の業界で話題となっている最新のIT技術やビジネス動向に関するテーマを取り上げた無料の公開講座	サイバー大学 IT・ビジネスセミナー
1, 3, 9, 10, 17	Arm Limited	生体認証機能を使って医療記録にアクセスできるデバイス	健康・医療サポート シムアリンツ
1, 3, 9, 10, 17		子どもの医療記録を管理する電子ネックレス	クシ・ベイビー
1, 9, 10, 17	ソフトバンク株式会社	ソフトバンクのiPhone、スマートフォンをご利用のお客さまが、募金を継続して携帯電話利用料と一緒にお支払いいただけるサービス	地域・団体への支援 かざして募金
1, 9, 10, 17		対象機種にご契約いただくと、ソフトバンクがお客さまの選んだ非営利団体に対し、一定額(6,000円)に加えて、毎月のご利用料金の3%を、2年間継続的に寄付する仕組み	チャリティモバイル
1, 2, 11, 17	ヤフー株式会社	福祉・環境、国際協力など、さまざまな分野で活動する団体に対して定期的に寄付を募る募金のほかに、災害発生後迅速に募金を始め、迅速な支援につなげる緊急支援募金がある	Yahoo! ネット募金
1, 9, 10, 11	OpenStreet株式会社	シェアサイクルプラットフォームの提供によりエコでスマートな移動手段の普及に貢献	HELLO CYCLING
			教育支援
4, 9	ソフトバンクグループ株式会社	「Pepper」を3年間自治体および非営利団体に貸し出し、プログラミング授業や社会課題解決への取り組みを実施するプログラム	Pepper 社会貢献プログラム
4, 17		東日本大震災の被災地域である岩手・宮城・福島の高校生約100人を、米国カリフォルニア大学バークレー校で行われる3週間の集中コースに無償で招待し、グローバルリーダーシップ・スキルと地域貢献を学ぶ機会を提供	TOMODACHI ソフトバンク・リーダーシップ・プログラム
4, 17		官民協働で取り組む次世代のグローバル人材育成を目的とした海外留学支援制度の支援	トビタテ! 留学 JAPAN 日本代表プログラム
4, 9	ソフトバンク株式会社	小学校、中学校、高等学校を対象に、体育の授業や部活動の指導において学校が抱える課題を遠隔指導を通じてサポートし、スポーツを通じた子どもたちの成長を応援することを旨とするサービス	ICT部活動支援
1, 4, 10, 17		虐待などで居場所を失った子どもや、事故や災害などで親を亡くした子どもたちへ、お客さまから毎月100円の寄付をいただき、ソフトバンクも同額を提出することで、1人当たり合計20円を、子ども支援を行う非営利団体に届ける携帯電話のオプションサービス	チャリティスマイル
9, 10		遠隔地にいる通訳者が講義内容などの話者の言葉を要約して携帯電話にリアルタイムで表示させるシステムの実験開発支援	モバイル型遠隔情報保障システム
4	福岡ソフトバンクホークス株式会社	元プロ野球選手による野球教室や、小さい子どもたちが球団キャラクター「ハリー＆ハニー」と一緒に野球にふれあいがながら楽しむスポーツ教室	ふれあい野球教室
4, 9	ソフトバンク コマース&サービス株式会社	2020年の教育改革によるプログラミング教室の必須化に先駆けて、各地の小・中学校でプログラミング教室を開催	プログラミング体験教室
			子育て支援
3, 9	ソフトバンク株式会社	生涯にわたる本人や家族の健康や成長・発達に関する情報をスマートフォンやタブレットを使って記録・管理できる自治体向けウェアサービス	成長ログサービス
3, 4, 9	株式会社 hugmo	日々の子育てをより便利に安心してできる環境や保育施設と家庭間をつなぐプラットフォームとして「hugmo」子育てクラウドの提供を実施	hugmo
3, 9, 10, 11, 17	SBドライブ株式会社	高齢者や障がいがある方だけでなく全ての人が自由に、安価に、安全に移動できる社会づくりを目指し、自動運転技術を活用したモビリティサービスの事業化に向けた取り組み	自動運転技術を活用した新しい移動手段
3, 9	ソフトバンク株式会社	シンプルで分かりやすい操作性に配慮し誰でも簡単に安心して使えるシニア向けスマートフォン	シンプルスマホ3
3, 9		認知症サポーターなど、認知症高齢者など見守り・徘徊SOSネットワーク事業の協力者のスマートフォンにオンレンジーフティネット (OSN) をインストールし、認知症高齢者の方の見守りを支援	高齢者の見守り支援
3, 9	ソフトバンク株式会社 ソフトバンクロボティクス株式会社	デイケア向けロボアブリを使い、高齢者がPepperの指導に合わせて手や足を動かしたり、童謡を歌いながら振り付けを覚えたりすることで、楽しみながらリハビリテーションができるレクリエーションの提供	リハビリテーションをサポート
			環境保全
7, 12, 13, 7, 13, 15	ソフトバンク株式会社	省電力化や省エネ施策の策定。環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得	温室効果ガス排出量を削減
7, 13	株式会社IDCフロンティア	テレワークの推進による社会全体のエネルギー消費量の削減。ペーパーレス推進による紙資料の削減を実施	電力・紙の使用量削減
7, 13		環境対応型の次世代データセンターを建設し、消費電力とCO ₂ 排出の削減など環境保全活動を実施	データセンターのエネルギー効率改善
12	ソフトバンク株式会社	リデュース(ゴミの量を減らす):水没や破損などで故障し、動作しなくなった携帯電話やタブレットの回収実施	資源・エネルギー対策 3R(リデュース・リユース・リサイクル)の取り組み
7, 13	ソフトバンク株式会社 SBパワー株式会社	リユース(繰り返し使う):故障していない携帯電話やタブレットの下取り推進 リサイクル(再度資源として生かす):[モバイル・リサイクルネットワーク(MRN)]の一員として、使用済み携帯電話の本体、電池パック、充電器類、USIMカードなどの回収を推進	自然でんき
7	SBエナジー株式会社	メガソーラーや風力発電など自然の力を利用して生み出される自然エネルギーを通じて、再生可能エネルギー発電所の建設と運営を推進	メガソーラー発電所、風力発電所を建設
13, 15		雑草の繁茂期間を通して、植生現場への除草効果、除草品質、安全面での機械除草との比較、セラピー効果などを検証	羊とヤギによる除草試験
4	SBエナジー株式会社 株式会社エデュアス	子どもたちがタブレットなどを使い、エネルギーについて教材やグループワークなどを通じて体験学習する小学生向け体験型環境教育プログラム	未来xエネルギープロジェクト
12	ソフトバンク コマース&サービス株式会社	不要になったICT機器の買取を実施。ゴミの排出を抑え、貴重な地球資源、社会循環品として有効活用	ICTライフサイクルサービス
7	Bloom Energy Japan株式会社	多くの電力を消費する卸売市場におけるCO ₂ 排出量の削減に貢献し、グリーンで安心・安全な電機を継続的に共有	Bloom エナジーサーバー
			食糧問題
2, 12	PSソリューションズ株式会社	田畑などで取得した環境データや生育情報を植物科学に基づいて分析し、最適な生育環境へナビゲートする農業IoTソリューション。コロンビアで農業の生産性を改善し、農家の生活向上に貢献	e-kakashi



SDGs 該当項目	社名	施策内容	施策名
			防災・減災への取り組み
3, 11	ソフトバンク株式会社	[災害対策基本法]に基づき、国の定める指定公共機関として「防災業務計画」を策定	防災等業務計画
11		対応マニュアルの徹底、非常時の体制確立と連絡網の整備、災害対策用設備および防災備蓄品の配備	社内体制の整備
11		毎年大規模災害に備えた全社規模の総合防災訓練を実施	防災訓練
11		実際の災害に近い状況を想定した訓練を実施し、訓練結果をネットワークの保守運用体制の見直しおよび改善に反映	ネットワーク障害対応訓練
11		[安否確認システム]を利用して人員の安否確認を行い、被災地の通信復旧作業に当たる人員を確保するための訓練を実施	安否確認訓練
11		毎年春秋の2回、総合防災訓練を実施	火災・地震の対応訓練
11		自治体主催による「総合防災訓練」、「障害困難者対策訓練」などに参加し、「災害用伝言板」のパネル展示や操作方法の説明および移動基地局車や衛星携帯電話の展示を実施	自治体防災訓練への参加
9, 11		災害発生時には、緊急対策本部を設置し、通信ネットワーク早期復旧などの対策を講じる	緊急対策本部の設置
9, 11		大規模災害の発生時における人命救助活動などに必要な通信手段として、防衛省および海上保安庁へ、衛星携帯電話やソフトバンク携帯電話などの通信機器を提供	災害協定
9, 11	ヤフー株式会社	インターネットの特性を活用して、避難勧告・避難指示や避難所情報、その他災害に関するさまざまな情報にいつでもどこでもアクセスできるよう、Yahoo! Japan内に自治体の情報を集約・整理して住民に提供	災害発生時サービス
9, 11	ソフトバンクグループ	災害や防災に関する情報の提供や災害発生時の情報通知、お客さまのコミュニケーション手段を確保するためのサービスなどを提供	
			復旧への取り組み
9, 11	ソフトバンク株式会社	耐震性・冗長化・無停電運転を強化したネットワークセンターと、停電が発生しても24時間以上稼働する基地局などの設置	移動通信サービスの取り組み
9, 11		輻輳の拡大による大規模な通信システムのダウン(通信障害)を回避するために、輻輳の規模に応じて通信サービスを一時的に規制することで、一定の通信サービスを維持・確保。通信サービスがご利用できなくなった場合、携帯電話サービスを迅速に復旧することを目的に、保留気球を用いた「気球無線中継システム」開発および移動基地局を配備	災害時の通信確保
9, 11		被災地域での連絡手段や復興活動、救援活動などへの活用のため、合計1,500台の衛星電話と携帯電話、またWi-Fi機器などを全国の拠点に配備し無償貸し出し実施	通信手段の提供
			復興支援への取り組み(東日本大震災)
9, 11, 17	ソフトバンク株式会社	東日本大震災の被災地域である岩手・宮城・福島の小中学生を対象に、東北の子どもたちの夢と志をスポーツや文化活動を通じて継続的に応援する大会	SoftBank 東北絆CUP
1, 4, 11, 17		ご利用料金のほかにお客さまから毎月100円の寄付をいただき、それと同額(加入者1人当たり10円)をソフトバンクが拠出して、1カ月当たり20円を、「中央共同募金会」と「あしなが育英会」に寄付	チャリティホワイト
1, 2, 11	ヤフー株式会社	[Search for 3.11]は、3月11日に「Yahoo!検索」で「3.11」というキーワードで検索された人数×10円を復興支援に取り組み団体に寄付する取り組み	Search for 3.11
1, 8, 11, 17		宮城県の新たな観光資源のひとつとして「サイクルツーリズム」を推進し、震災復興と地方創生へ貢献	ツール・ド・東北
1, 2, 8, 11, 17		東北の伝統的な銘品や特産物などに新たな角度からスポットを当てることによって、「被災地のために何か購入したい!」「あの商品だから買いたい!」と、購入者の意識が変わる取り組みを東北の皆さんと一緒に推進	東北エールマーケット
1, 11, 17		ミュージシャンやタレント、スポーツ選手といった数多くの各界の著名人が協力し、東北で復興支援を行う団体への寄付を目的としてチャリティーオークションを実施	東日本大震災チャリティーオークション
11, 17		2012年7月には、宮城県石巻市に復興支援事業の拠点として「ヤフー石巻復興ベース(現・ヤフー石巻ベース)」を設け、地元の方たちと一緒にその課題解決に取り組む	ヤフー石巻ベース
1, 4, 11	ソフトバンク コマース&サービス株式会社	社員同士が感謝の気持ちを伝え合う社内のコミュニケーションツールで、1年間に交わされた「ありがとう」の数に応じた金額を、東日本大震災の復興支援のために寄付	ありがとう募金
			復興支援への取り組み(平成28年熊本地震)
3, 11	ソフトバンク株式会社	2016年5月~7月、避難所で生活している方々の心のケアを目的に、熊本県内の小学校など全5カ所の避難所に人型ロボット「Pepper」を派遣	被災地へ笑顔を届ける Pepper
4, 11	ソフトバンクロボティクス株式会社	2018年2月、東日本大震災の被災地である福島県南相馬市と熊本地震の被災地である熊本県南阿蘇村で、Pepperを活用した小学生同士の遠隔交流授業を実施	
4, 11	ソフトバンク株式会社 福岡ソフトバンクホークス株式会社	熊本県内の小学校で、スポーツを通じて子どもたちに笑顔を届けるため、2016年6月から福岡ソフトバンクホークスの元選手による野球教室を開催	野球教室を開催
1, 11	福岡ソフトバンクホークス株式会社	募金活動やチャリティーマッチの実施、選手による被災地訪問や球場への招待、さらには観客動員1人につき1円をNPO法人ホークスジュニアアカデミーに寄付する「観客動員運動型支援プログラム」を実施	九州を元気にしたい!ホークス選手による復興支援
1, 11	ヤフー株式会社	熊本の未来をつくる子どもたちのために活用される「くまモン募金箱」や、被害を受けた熊本県の修復再建に向けた募金などを実施	インターネットを通じた復興支援
			ダイバーシティ社会の実現
8, 10, 17	ソフトバンク株式会社	精神障がいや発達障がいなどの理由により、業務の遂行に支障がなくても、長時間勤務することが難しい方が週20時間未満の労働時間で就業できる制度	ショートタイムワーク制度
9, 10		主に知的障がいのある方の連絡や行動など社会生活を支援するサービス	アシストスマホ
9, 10		画面に表示されている項目を音声で読み上げる視覚サポート機能「ボイスオーバー」を使って、視覚障がいのある方がiPhoneの基本的な操作方法を学習・練習するためのアプリケーション	視覚障がい者向け使い易教室 for iPhone
4, 9, 10		[辞書]で手話を詳しく学べると同時に、「ゲーム」を通じて楽しく手話を学ぶことができるアプリケーション	ゲームで学べる手話辞典
9, 10		障がいのある方を対象とした割引サービス	ハートフレンド割引
4, 9, 10		ろう者が日常的に用いる「日本手話」を、語学教育の理論と方法を身に付けた講師(日本手話を母語とするろう者)の指導の下で学習できる、国内有数の手話教室	ソフトバンク手話教室
10		聴覚に障がいのあるお客さまに安心して携帯電話に関するご相談、または契約に関するさまざまなお手続きをしていただけるよう、手話カウンターを併設(ソフトバンク渋谷)	手話カウンター
5, 10		誰でも自分らしく活躍することができる社会を目指すため社内外での取り組みを実施	LGBTに関する取り組み
5, 10		女性がライフワークバランスを取りやすい職場環境づくりを目指す取り組み	女性活躍
			安心安全への配慮
9, 10	ソフトバンク株式会社	青少年にとって不適切なコンテンツを、子どもの年齢に応じて制限	あんしんフィルター
9, 10		青少年にとって不適切なアダルトサイトや違法サイトへのアクセスを制限し、高額請求や犯罪への接触を未然に防止	ウェア安心サービス
4, 9		携帯電話やスマートフォンを正しくご利用いただくためのマナーやルールの呼び掛け、子どもや保護者を対象とした参加型授業プログラム	考えよう、ケータイ・スマートフォンシリーズ
4, 9		子どもの年齢に合わせた強度でフィルタリングの設定が可能なスマートフォン	ジュニアスマホ
9		[位置ナビ]や「みまもりGPSアプリ」機能で、子どもの居場所をいつでも簡単に確認することが可能な携帯電話	みまもりケータイ
9		歩きスマホによる事故防止のため、スマートフォンの画面を見ながら歩行すると警告画面を表示するアプリ	STOP歩きスマホ
			従業員とともに
1, 11	ソフトバンク株式会社	社員から集まった義援金を寄付し非営利団体の活動をサポート	社員募金
11, 16, 17		年2日までボランティア活動休暇を付与し、社員の地域ボランティア活動への参加を促進	社員のボランティア活動



ソフトバンクグループ株式会社

〒105-7303
東京都港区東新橋1-9-1
TEL: 03-6889-2000(代表)
<https://www.softbank.jp/>



Copyright © 2018 SoftBank Group Corp. All Rights Reserved.

Printed in Japan

• TM and © 2018 Apple Inc. All rights reserved. Apple, iPhone, iPadは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。iPhone商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
• Androidは、Google Inc.の商標または登録商標です。